

保育者養成における音楽表現としての替え歌創作

Making Parodies as Musical Expression in Childcare Education

おおた みか
大田 美郁

<要旨>

本研究の目的は、保育者養成における音楽表現としての替え歌創作の方法を探ることである。保育者を目指す学生が音楽表現のなかで創作やアレンジ活動を学ぶことは、保育の現場で場に応じて音楽を活用するのに役立ち、音楽概念を広げ、子どもの素朴な表現への気づきにも繋がると考えられる。筆者は創作の一環として授業に替え歌づくりを取り入れ、音楽表現としての替え歌づくりの可能性とつくり方を提示する必要性を感じた。そこで、子どもの歌を原曲とする替え歌を調べ、そこから替え歌づくりの方法を探ることにした。

替え歌は遊びの歌であるという認識から記録に残りにくいため、インターネット上の作例も集めた中から17例を取り上げ分析したところ、こどもの歌を原曲とする替え歌は、遊び、表現、記憶、カスタマイズの4つの創作目的すべてで見られたこと、歌詞の替え方にはごく一部を替えるものからすべてを替えるものまで5つの段階があることなどがわかった。その結果と一般的な替え歌創作の方法等とを合わせて保育者養成における音楽表現のための替え歌のつくり方について考え、原曲を選ぶ、原曲を覚える、テーマを決める、歌詞を考える、原曲を生かす、の5つをその方法とした。

<キーワード>

替え歌, 創作, 保育者養成, 表現, こどもの歌

I. はじめに

保育者をめざす学生が音楽表現を学ぶ際、創作やアレンジなどの活動は、表現力の向上や保育現場での臨機応変な音楽の活用に役立つと思われ、音楽は自ら生み出すものであるというより広い音楽概念の獲得と、幼児の素朴な自己表現への気づきにも繋がると考えられる。

創作活動のなかで比較的容易なものとして、替え歌づくりが挙げられる。原曲のメロディを借りて歌詞だけ作ればよい替え歌は、子どもでもできるし遊びでもあるが、大人がつくる替え歌には遊びだけでない表現としての機能がある。

替え歌に関する先行研究としては、歌詞の資料集成として『替歌研究』（有馬）、音楽性に関する研究を含むものとして『わらべうたの研究』（小泉）、授業における創作活動に関して『替え歌遊び』（岡）や『『替え歌』創作の教育効果に関する一考察—『こどもと音楽Ⅱくさまざまな“うた”>』における授業実践をもとに—』（風間）などがある。これらにより、明治期からの作詞例、替え歌の音楽的特徴、小学校と保育者教員養成校における創作活動のための替え歌について知ることができ、とくに風間の研究は、替え歌を自己表現の手段として日本やアジアの即興歌の伝統の延長ととらえたうえでの授業実践を試みており、示唆に富む。

筆者は「表現のための」替え歌の存在に注目し、先行研究から「表現」に関わる部分を抽出して保育者養成に替え歌創作を取り入れることを試み、替え歌の教育的可能性の手ごたえを得た。一方で、手軽で楽しい創作活動のためには替え歌のつくり方を提示する必要があると感じ、こどもの歌を原曲とする替え歌から保育者養成における音楽表現としての替え歌づくりに役立つ要素を取り出し、創作活動に取り入れる方法が有効ではないかと考えた。

本研究の目的は保育者養成における音楽表現としての替え歌づくりの方法を探ることである。

II. 研究方法

1. 替え歌について

替え歌とは、既成の楽曲を歌うに際し、原曲のメロディはそのままに歌詞のみを新たに作り替えて歌うことである（風間：64）。ここでは音楽表現の創作活動に用いる視点から、替え歌の種類、音楽的性質、導入の重点に関してまとめておく（大田：194-196）。

まず、ウィキペディアの「替え歌」の項目を手掛かりに創作の目的に沿って分類したところ、替え歌を次の4種類に分類できた。

- 1) 遊びのための替え歌...子どもの言葉遊び歌、猥歌など
- 2) 表現のための替え歌...民謡、音楽・芸能活動での歌詞リメイク、抗議・風刺の歌など
- 3) 記憶のための替え歌...CMソング、暗記のための歌など
- 4) カスタマイズのための替え歌...応援歌など

このように替え歌の中には「表現のための」ものがあることに注目すると、替え歌を保育者

養成における音楽表現活動として取り入れることができる。

また、替え歌の音楽的性質としては次の4点が挙げられる。

- 1) 替え歌は「言葉遊び」自体を楽しむ歌である。
- 2) メロディに歌詞をあてはめる意識が強く、音楽的には歌詞よりメロディ優先である。
- 3) 原曲は童謡や流行歌やCMソングなど、子どもの生活の中にある、最も身近な歌が多い。
- 4) 歌詞の替え方には、元の歌詞の言葉を「もじる」などして一部替える方法（aタイプ）と、新しい歌詞をつける方法（bタイプ）の2種類の方法がある。

さらに、保育者養成において表現活動として替え歌づくりを取り入れる場合には、次の5点が重要であると筆者は考える。

- 1) 替え歌創作をとおして、歌の本来の姿である自分のことを自分の言葉で歌う体験をする。
- 2) 原曲のメロディに新しい歌詞をのせる作詞bタイプを用い、事前に歌詞を用意する。
- 3) 原曲には、シンプルな構造の短い曲で、参加者全員が馴染んでいる曲を用いる。
- 4) 原曲を尊重した楽しい表現活動を心がけ、倫理観と著作権に配慮した作品づくりを行う。
- 5) 替え歌のエンターテインメント性とコミュニケーション力を活かした表現活動を行う。

2. 研究方法

上記5つの重点の3)と4)に関連し、短い、形式が整っている、歌詞が簡潔で内容も明るいものが多い、学生も幼児も馴染んでいる、などの理由から、保育で歌われる童謡、唱歌などの「こどもの歌」は保育者養成校における替え歌づくりの原曲に適している¹⁾。また、替え歌をつくる過程で原曲の歌詞や音楽を反芻するため、原曲の理解を深めることにも役立つと考えられる。そこで本稿ではまず、本学の「こどもと音楽表現」の授業で用いられているこどもの歌を中心に、先行研究やインターネットに見られるそれらを原曲とする替え歌の作例を集め、代表的なものを紹介する。

もともと替え歌は遊び歌であるため音楽的価値が認められておらず、「非芸術的、下品、娯乐的」（有馬：255）という社会的な認識から記録にも残りにくい。しかし、近年は作品がインターネット上に投稿されたり記録として残されたりしていることがあるため、作例の収集にはインターネットも活用する。その作例を分析し、保育者養成における表現活動としての替え歌のつくり方について考察を行う。

Ⅲ. 替え歌の作例とつくり方

1. こどもの歌による替え歌の作例

(1) 選曲した楽曲について

Ⅱ章で示した創作目的による替え歌の4つの分類、「遊び」「表現」「記憶」「カスタマイズ」の

うち、ここでは最終的に表現替え歌の創作について考えたいので「遊び」替え歌に関しては最小限にとどめて替え歌の作例を集め、表1の18曲を選出した。これらを4つの分類に沿って紹介していく。

表1 替え歌の原曲となったこどもの歌

季節の歌	行事の歌	その他の歌
チューリップ	こいのぼり	あめふりくまのこ
ぶんぶんぶん	たなばたさま	そうだったらいいのにな
かたつむり	お正月	森のくまさん
うみ	うれしいひなまつり	山の音楽家
とんぼのめがね	おもいでアルバム	
どんぐりころころ	一年生になったら	
大きな栗の木の下	あわてんぼうのサンタクロース	

(2) 4つの分類別の作例

ここでは「遊び」「表現」「記憶」「カスタマイズ」の順に、原曲と替え歌（以後〔原〕、〔替〕と表記）を並べて示す。○数字は通し番号である。

(2)-1 遊びのための替え歌

1) 言葉遊び替え歌1 《森のくまさん》《うれしいひなまつり》《お正月》

『わらべうたの研究』によれば、こどもの替え歌のつくり方 a タイプには、フレーズの後のほうの言葉を置き換えていく、言葉の一音をきっかけにして言葉を付け足していく、元歌の歌詞の特徴をうまくつかんで生かす、などの方法がある。（小泉：506）

① 《森のくまさん》（馬場祥弘日本語歌詞・アメリカ民謡）：言葉を付け足す例

〔原〕 あるひ もりのなか くまさんに であった（後略）	〔替〕 あるひんけつ もりのなかんちょう くまさんにんにく であったんこぶ（後略）
---------------------------------------	--

この替え歌は広く歌われているようであるが、「授業に使える言葉遊び」シリーズの5冊目である『替え歌遊び』でも1曲目に取り上げられており、言葉の最後の音に合わせて好きな言葉をはめ込めるので、テーマを決めて作ったりお話し仕立てにして楽しむといった形で小学校低学年・中学年で楽しめる、と紹介されている（岡：11-17）。

② 《うれしいひなまつり》(サトウハチロー作詞・河村光陽作曲)：言葉を置き換える例

〔原〕 あかりをつけましょ ぼんぼりに お花をあげましょ 桃の花 五人囃子の 笛太鼓 今日は楽しい ひなまつり	〔替〕 あかりをつけましょ 100 ワット お花をあげましょ 若乃花 五人囃子の 愚連隊 今日は楽しい お葬式
--	--

この歌詞は『わらべうたの研究』に載っている《うれしいひなまつり》の一例で(小泉：49) 1961年に採集されたものなので、「若乃花」「愚連隊」といった当時の子どもたちに馴染みのある言葉が使われているが、現在でもさまざまな例で歌われていることが「#ひな祭り替え歌 hashtag on Twitter」などを見るとわかる²。同様に《お正月》も1961年にすでに「もういくつねるとお正月／お正月には餅食って腹をこわして死んじゃった／はやく来い来い霊柩車」という歌詞で採集されており(小泉：54)、これらは年中行事と結びついた不動のスタンダードナンバーとして定着していると思われる。

2) 言葉遊び替え歌2 《ぶんぶんぶん》《かたつむり》

歌詞は全く替えずに、一定の法則で音をはめ込んでいくつくり方。

③ 《ぶんぶんぶん》(村野四郎日本語歌詞・ボヘミア民謡)

〔原〕 ぶんぶんぶん はちがとぶ おいけのまわりに のぼらがさいたよ (後略)	〔替〕 ぶるんぶるんぶるん はるちるがるとるぶる(ん) おるいるけるのるまるわるりるにる のるばるらるがるさるいるたるよる (後略)
--	---

《ぶんぶんぶん》の場合「ル」を挟むのが一般的で³、2行目の歌詞の最後はその法則で「ぶる」で終わるものと実際に歌ってリズムに乗ると「ぶるん」になるものがあったり、「ぶるんる」と「ん」の後ろにも「る」入れるものがあったりする。また、「ラ行」の音を入れて2行目以降が「はらちりがらとるぶる」という例もある⁴。同様に、《かたつむり》にも「ラ行」の音を挟んで「でれんでれんむるしりむるしりからたらつるむるりり」という例がある⁵。替え歌というよりはゲーム感覚で歌われる言葉遊び歌に近い。

(2)-2 表現のための替え歌

1) 好きなもの替え歌《チューリップ》《とんぼのめがね》《大きな栗の木の下で》《山の音楽家》

④ 《チューリップ》(近藤宮子作詞・井上武士作曲)：好きな花・色に替える例

〔原〕 さいたさいたチューリップの花が ならんだならんだ 赤白黄色 どの花みても きれいだな	〔替〕 咲いた咲いたカーネーションの花が 並んだ並んだ 赤・白・ピンク どの花みても きれいだな
--	--

この歌詞は『介護予防+認知症予防プログラム 歌あそび・歌体操 12ヵ月80種』に4月の歌あそびとして掲載されており(能村：37)、「花の名前」と「花の色」を替える例として他

にも「すいせんの花が・黄色と白が」や「さくらの花が・うすももいろが」などが挙げられている。本書によれば、歌を使う活動のねらいと効能がいろいろある中で、替え歌は「連想力」「回想力」を刺激する活動である（能村：6-7）。目の前の花でも、空想でも記憶でもよいところが言語能力や認知能力の活性化につながるのだと思われる。

⑤ 《とんぼのめがね》（額賀誠志作詞・平井康三郎作曲）：好きな色・場所に替える例

〔原〕 とんぼのめがねは 水色めがね 青いお空を 飛んだから 飛んだから	〔替〕 トンボの眼鏡は 黒色めがね 夜のお空を 飛んだから 飛んだから
--	---

子どもたちが《とんぼのめがね》の替え歌を歌う様子はブログにいくつか見られた。上の歌詞は、子どもの学校でこの歌の替え歌がはやっていて「なかなか面白い発想の色&場所」を歌っているそうだと記された徒然庵氏のブログにある⁶。ほかにも、南横須賀幼稚園のブログには「とんぼのめがねは何色めがね？」と題して、『『とんぼのめがねは紫めがね～ぶどうの空を飛んだから～』『とんぼのめがねはキラキラめがね～プリンセスにとまったから～』みんなそれぞれ自分の色に合わせて替え歌も楽しんでいました』と、園児たちが歌いながら「めがね」の色塗りをする様子が掲載されている⁷。

⑥ 《大きな栗の木の下で》（作詞者不明／イギリス民謡）：好きな木に替える例

〔原〕 大きな栗の木の下で あなたとわたし なかよく遊びましょう 大きな栗の木の下で	〔替〕 大きな桜の木の下で あなたとわたし お花見しましょう 大きな桜の木の下で
---	---

この歌は保育関係の YouTube 動画でも動作とともに替え歌が紹介されていて、替え歌遊びが定着している感があり、いくつかの展開が見られた。

「ダーさんの手遊び大百科」のホームページでは、「ヤナギの木」（オバケの動作）「サクラの木」（花びらが散る動作）「おおきなヤシでフラダンス／あなたとわたし／たのしくフラダンス～」（フラダンスの動作）が紹介されている⁸。

「ひまわり日本のうた」のホームページでは、上記替え歌とともに、「小さな栗の木」「高いバナナの木」のように「大きな」の語に対応する歌詞が動作とともに紹介されている⁹。

他にも「栗」を「みかん」や「りんご」や他のくだものに替えたり¹⁰、「緑のもみの木」を入れて春夏秋冬を歌うものもある。

「手袋シアター 大きな栗の木下で」という商品では、右のような手袋で演じながら2番以降を次の替え歌で歌うよう指示している¹¹。

「大きな栗の木下(ママ)で／うさちゃんが太鼓たたく／トントコトン
トントントン／大きな栗の木下で」「大きな栗の木下で／
ぶたさんがラッパ吹く／ブーブーブー ブーブーブー…」



図1 手袋シアター

「大きな栗の木下で／かめさんがやってきて／栗の実落っこちた…」 「大きな栗の木下で／みんなと一緒に／楽しく音楽会…」 と、楽しいお話になっている。

また、原曲には阪田寛夫作詞の2番と3番の歌詞がある。

〔原〕(2番) 大きな栗の木の下で
お話ししましょう
みんなで輪になって
大きな栗の木の下で

こちらは栗の木の下ですることの替え歌とも言え、シンプルでありながらいろいろな展開例の見られる歌である。

⑦ 《山の音楽家》(水田詩仙日本語歌詞・ドイツ民謡)：好きな楽器・動物に替える例

〔原〕わたしゃ音楽家 山のこりす
上手にバイオリン 弾いてみましょう
キュキュキュッキュッキュツ (4回)
いかがです

〔替〕わたしゃ音楽家 川のカエル
上手に喉笛 聴かせてみましょう
ゲコゲッコー (4回)
いかがです

この歌詞はギター教室のブログにあり、「将来的に生徒さんが自分で曲も作れるように、その手始めとして」替え歌で遊んだときのものである¹²。この歌は、「動物」「楽器」「楽器音のオノマトペ」を替えて遊べ、音楽表現としても楽しい。

2) 願望替え歌《たなばたさま》《うみ》《そうだったらいいのにな》

⑧ 《たなばたさま》(権藤はなよ／林柳波作詞・下総皖一作曲)

〔原〕五色の短冊 わたし書いた
(2番) お星さまきらきら 空から見てる

〔替〕五色の短冊 ○○さんが書いた
ロケットに乗って 月まで行こう

この歌詞は、「特別養護老人ホーム セントポーリア愛の郷」のお便りに掲載されている¹³。ホームでは音楽療法で毎年七夕の時期に《たなばたさま》の替え歌を作り、それぞれの願いごとを参加者全員で歌って大変盛り上がるということである。

⑨ 《うみ》(林柳波作詞・井上武士作曲)

同様に、精神科医として「日本人のための音楽療法」に取り組む牧野は、日本古来の音楽モデルとして「つくり歌」(＝替え歌)の重要性を指摘し、勤務する病院の「七夕の笹竹を囲み歌う会」で毎年、患者の皆さんの願望を《うみ》の旋律に乗せて歌っている(牧野：97)。

〔原〕海はひろいな 大きいな
月がのぼるし 日が沈む

〔替〕大きな大福 食べたいな
大きな大福 食べたいな

治療中で食べられない甘いものや飲めないビール、入院中で行けない場所やできないことなど、自分たちの願望を短い旋律に乗せて二度歌う。それが満足感につながり、皆で歌うことで場の雰囲気も盛り上がる。たとえ短い歌詞でも「つくり歌」として自分の言葉で歌うことで、

自己表現と感情のコントロールが可能になるということである。

3) 想像替え歌 《こいのぼり》《そうだったらいいのにな》

⑩ 《こいのぼり》(近藤宮子歌詞・作曲者不明)

〔原〕 屋根より高い こいのぼり
大きい真鯉は お父さん
小さい緋鯉は こどもたち
おもしろそうに 泳いでる

〔替〕 くもよりたかい こいのぼり
おおきいまごいに こどもたち
ちいさいひごいに おとうさん
おもしろそうに とんでる

この歌詞は、絵本『とらのこさんきょうだい かえうたかえうたこいのぼり』で最初に歌われる替え歌である(石井:7-8)。この絵本は、虎の子の三兄弟が次々と歌う替え歌でストーリーが展開していき、「家よりでかい」「へびより長い」「岩よりかたい」「ガオガオ叫ぶ」など、さまざまなこいのぼりが歌詞と絵で登場する。現実にはないシチュエーションを空想で描いて歌う楽しさがよく感じられる。

⑪ 《そうだったらいいのにな》(井出隆夫作詞・福田和禾子作曲)

〔原〕(前略)
うちのお庭が ジャングルで
子犬のタローが ライオンだ
そうだったらいいのにな(2回)

〔替〕(前略)
4くみのおへやが あおいうみ
たこさんとあそんでたら とばされた
そうだったらいいのにな(2回)

この歌詞は、沖縄市立泡瀬幼稚園の源河教諭による実践研究報告「表現する意欲と豊かな感性を育てる援助のあり方～歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して～」に紹介されており¹⁴、子どもたちが、「4くみのおへやが海だったら」という想像を膨らませるなかで作ったものである。子どもたちの替え歌を教師が聞き取り、子どもたちがペープサートを使って自分の歌を発表し、みんなで一緒に歌って楽しむという活動の流れのなかで歌われた。

4) お話替え歌 《どんぐりころころ》

⑫ 《どんぐりころころ》(青木存義作詞・梁田貞作曲)

〔原〕 どんぐりころころ どんぶりこ
お池にはまって さあ大変
どじょうが出てきて こんにちは
坊ちゃん一緒に 遊びましょう

〔替〕 どんぐりころころ ないてたら
(3番) おいけのなかまが やってきて
どうしたらおやまに かえられるか
みんなでちえを だしあった

この歌詞は、絵本『どんぐりころころ おやまへかえるだいさくせん』に《どんぐりころころ》の3番として出てくる。この絵本は《どんぐりころころ》の1番、2番の歌詞から始まり、文がそのまま歌詞になる形で17番まで続く中で、どんぐりの冒険が展開していく。原曲歌詞の2番が「泣いてはどじょうを困らせた」で終わるため続きが気になる人はいるようで、この絵本の感想欄には読者の作った替え歌歌詞も載っている。

同じように3番以降の替え歌歌詞でつづられる絵本『どんぐりころころ そのあとは...』で

は、最後が「どんぐりころころもりのなか／なかまといっしょにあそんだら／ゆーやけこやけでひがくれて／よるはたのしい音楽会」となっている。(志村：30-31)

(2)-3 記憶のための替え歌

1) 生活習慣替え歌 《あめふりくまのこ》《あわてんぼうのサンタクロース》

⑬ 《あめふりくまのこ》(鶴見正夫作詞・湯山昭作曲)：手洗いの歌の例

〔原〕 おやまにあめが ふりました
あとからあとから ふってきて
ちよろちよろおがわが できました

〔替〕 きれいにおててを あらいましょ
カメさんのこのこ やってきて
ほらほらお山が 見えてきた

この替え歌では¹⁵、手の甲を洗う「カメさん」、指の間を洗う「お山」、指先を洗う「ネコさん」などの動きを入れた歌詞を歌いながら手洗いの正しい仕方を覚えられるようになっている。いくつかの地域の園がブログなどで実践の様子を紹介しており、それぞれ歌詞の順序や長さが少しずつ違うのは、生活の歌として浸透しているからであると思われる。

⑭ 《あわてんぼうのサンタクロース》(吉岡治作詞・小林亜星作曲)：片付けの歌の例

〔原〕 あわてんぼうのサンタクロース
クリスマスまえにやってきた
いそいでリンリンリン
いそいでリンリンリン
ならしておくれよかねを
リンリンリン (3回)

〔替〕 あわてんぼうのサンタクロース
(2番) いそいでおもちゃをかたづけた
きれいにサッサッサッ
きれいにサッサッサッ
かたづけじょうずにサッサッサッ
サッサッサッ (3回)

この歌詞は、「今月の生活目標は『使った物をきちんと片付けよう』です。あわてんぼうのサンタクロースの替え歌をみんなで歌って、片付けの必要性を再確認しました。」として稲敷市立古渡小学校のホームページに載っている¹⁶。片付けが楽しくはかどりそうな替え歌である。

2) 記憶替え歌 《チューリップ》

⑮ 《チューリップ》(前述)

〔原〕 さいたさいた
チューリップのはなが
ならんだならんだ あかしろきいろ
どのはなみても きれいだな

〔替〕 あいり ひゅうが
えりな あきよし
たかこ りえ ひさし かずあき
よしかず さちよ あやね めい

「保育士さんの応援歌」というホームページに、保育の裏技として、子どもの名前を楽に覚えるための「名まえ替え歌の作り方」が紹介されている¹⁷。「子どもたちが覚えてしまうと、クラスに入ってくれる代替の保育士さんや、実習に入った学生さんでも、簡単に集合の声かけができます。さらに、緊急時の避難誘導の際は、驚くほど早く、安全確認ができるのです。」と、替え歌のもつ記憶の働きが素早く確実な点呼に結び付けられている。人数が多い場合は《ミ

ッキーマウスマーチ》, 少なければ《ぞうさん》もおすすめとある。替え歌に乗せることで子どもとともに, または子どもだけでも点呼ができる, 保育士ならではの発想と工夫である。

(2)-4 カスタマイズのための替え歌《おもいでアルバム》《一年生になったら》

⑩ 《おもいでアルバム》(増子とし作詞・本多鉄磨作曲)

〔原〕はるのことで す おもいだしてごらん
(2番) あんなことこんなこと
あつたでしょう
ぼかぼかおにわで なかよくあそんだ
きれいなはなも さいていた

〔替〕春のことで す 思い出してごらん
(2番) あんなことこんなこと
あつたでしょう
うんどう会では 紅白みんなで
がんばった思い出 かがやいてる

この歌詞は福島市立東湯野小学校のホームページに掲載されている¹⁸。ブログによれば, 新型コロナウイルスの感染拡大防止のために急遽3月4日から臨時休業となったため3日に行われた「6年生を送る会」で, 5年生がつくった替え歌(全6番)をみんなで輪になって手をつないで歌ったとあり, たくさんの写真や替え歌歌詞から心のこもった会の様子が伝わってくる。

また, 「保育の知恵袋」というホームページには¹⁹「思い出のアルバム 歌詞&ピアノ伴奏—替え歌でオリジナルの卒園ソングに—」という記事があり, 「替え歌のポイント」として, それぞれの季節の後半部分の歌詞を各園や各クラスの思い出エピソードに替えて「オリジナル卒園ソング」にすることを薦めている。実際インターネットには, 園や小学校, 結婚式, 福祉会など「思い出」の日々を振り返る場面でこの替え歌がつけられている様子が見られる。

⑪ 《一年生になったら》(まど・みちお作詞・山本直純作曲)

〔原〕一年生になったら (2回)
ともだち百人 できるかな
百人で食べたいな
富士山の上でおにぎりを
ぱっくん ぱっくん ぱっくんと

〔替〕一年生になったら (2回)
やさしいリーダー まっていた
リーダーありがとう
学校楽しくなりました
まだまだいっしょに あそびたい

この歌詞は, 広島市立戸坂城山小学校のホームページに載っている²⁰。やはり「6年生を送る会」で一年生から六年生に贈られた歌である。原曲では「一年生になったら」やりたいことが歌われているが, 替え歌では一年生になってからの六年生との交流が歌われている。続いて「6年生になったら 六年生になったら リーダーみたいになりたいな」という歌詞も紹介されており, 思い出の歌としても期待の歌としても展開できるようである。

(3) こどもの歌による替え歌作例のまとめ

ここまでのこどもの歌による替え歌作例 17 曲を創作目的別にまとめると, 表 2 のようになる。

表2 替え歌の原曲となったこどもの歌の創作目的別分類

遊び	表現	記憶	カスタマイズ
①森のくまさん ②うれしい ひなまつり ③ぶんぶんぶん	好 ④チューリップ	習 慣 ⑬あめふりくまのこ ⑭あわてんぼうの サンタクロース	⑯おもいでアルバム ⑰一年生になったら
	き ⑤とんぼのめがね		
	な ⑥大きな栗の木の下で		
	物 ⑦山の音楽家		
	願 ⑧たなばたさま	記 憶 ⑮チューリップ	
	望 ⑨うみ		
	想 ⑩こいのぼり		
	像 ⑪そうだったらいいのにな		
	話 ⑫どんぐりころころ		

2. 替え歌のつくり方例

(1) 《森のくまさん》展開例から

前掲の『替え歌遊び』には14曲の替え歌遊びが掲載されている。その第1曲目の《森のくまさん》を例に小学校低学年での替え歌づくりの方法をしてみる。(岡：9-17)

1) 《森のくまさん》を楽しく歌う。できれば1週間くらい歌いこむ。

2) 《森のくまさん》の1番を板書する。

3) 《森のくまさん》を《病気のくまさん》に、というテーマで意見を出し合う。

(あるーひんけつ／もりのなかぜひき...)

4) 替え歌づくりのイメージをもたせるため、別のテーマの《お花のくまさん》を歌ってみせる。

(あるーひまわり／もりのなカーネーション...)

5) テーマを決めて各自作詞する。(〇〇のくまさん。〇〇はすきなもの)

6) 良い作品ができたならみんなで合唱する。

授業であるため2)は板書であるが、本書には図2のような掲示用の原曲歌詞と替え歌作詞用のプリント原稿が各歌に用意されている。

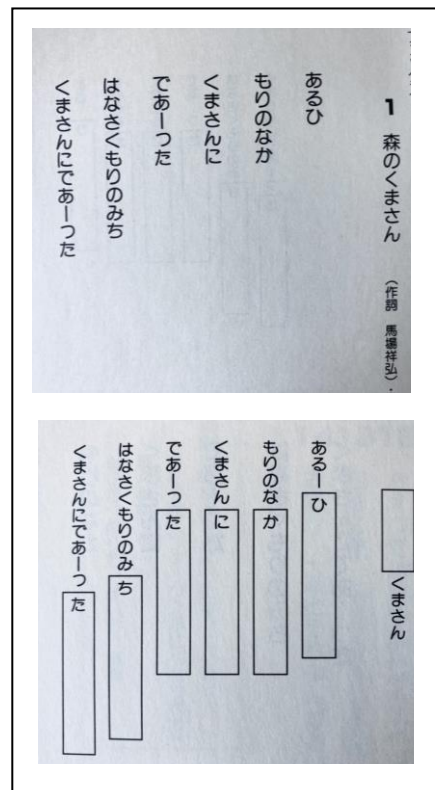


図2 作詞用プリント例

5)のテーマについては、他にも「給食」「名前」「食べ物大好き」などの例や、テーマが絞れなかったら「なんでもくまさん」としてバラバラでも楽しめ

ること、「おばけ」をテーマにお話にもできたこと、などが紹介されている。また、「子ども達が歌詞を覚えてしまって喜んで歌うようになった頃が替え歌づくりの好機です」と、替え歌づくりに入る前に「何回も歌う」「毎日のように歌う」ことがおすすめであり、そこから傑作が生まれると、他の歌のところでも述べられている。

(2) インターネットから

YouTubeにはたくさんの替え歌が投稿されている。インターネットに公開するからには、個人の楽しみや内輪のための歌ではなく、不特定多数のなるべく多くの人を対象とした作品であり、表現替え歌である。それらはウケることや多くの人との共感を得ることを目的に作られていることが多く、必ずしも「想像を広げる」「表現力を伸ばす」という方向性での創作ではないが、技術面での参考に Web サイト「いそからす式『替え歌の作り方』」を見てみる²¹。

ここではポイントとして次の6点が挙げられている。

1) 原曲を十二分に理解する

とにかく歌に馴染む。歌を聴き、歌い、楽しむことによって、その曲調、リズム、歌詞の雰囲気などを身につけ、歌に同調して形式をよく知る必要がある。

2) テーマや方針を定めておく

笑い優先か、メッセージ性を強調するのか、物語風に仕上げるのかと、表現方法も多種多様である。

3) 原曲のリズムや韻律に合わせる

原曲の形式に則ってこそ替え歌である。ここがズレると替え歌として見苦しい。形式に合わせるために、体言止め、倒置法、対句法を使う、同じ意味でも違う言葉などによる字数操作をする、歌詞を詰めたり間を空けたりして韻律を揃える、などの方法もある。

4) 原曲の歌詞を上手く流用する

替え歌が面白いのは、受け手側がもとのネタを知っているからである。もともとの歌詞に似せた歌詞が面白い。

5) 原曲はみんなの知っている曲が良い。

6) 分かりやすい表現を用いる。

サイト管理者いそからす氏は「替え歌も広義の意味では二次創作物」であり、「それ相応の手間暇をかけ、何らかの意図や目的を負荷することで優れた作品にもなり得るのではないか」と述べている。

(3) 替え歌の作り方についてのまとめ

上記より、替え歌の作り方について、表現替え歌づくりの参考にしたい共通する重点をまとめると次のようになる。

- 1) みんなの知っている原曲を用いる。
- 2) 原曲を何度も歌って、楽しみながら体で覚える。
- 3) テーマを決める。
- 4) 原曲のリズムや音数に合わせて歌詞を考える。
- 5) 原曲の歌詞を上手に流用する。

IV. 結果と考察

1. こどもの歌の替え歌作例から

考察にあたり、まずⅢ章の表 2 について次の 3 点に注目した。

1 点目は、こどもの歌を原曲とする替え歌が 4 つの用途すべてで見られたことである。今回は例示のために 20 数曲を調べただけであり、先にも述べたように遊び替え歌は作例が多いがほとんど取り上げていない。それでもこの表からこどもの歌を原曲に用いる替え歌づくりの活動のさまざまな可能性が感じられる。さらに表現替え歌には、好きなもの、願望、想像、お話といった展開例が見られ、保育者養成において自己表現のための創作活動として取り入れる際の参考になる。

2 点目は、替え歌の歌詞の替え方である。表 2 の 17 曲がどのようにつくられているかを、Ⅱ章 1 節で替え歌の性質の 4) として示した「歌詞の替え方」の二つのタイプ、すなわち一部を替える a タイプと全く新しい歌詞をつける b タイプで分けた場合、b タイプは 3 曲と少なかった。一方 14 曲ある a タイプにも原曲の歌詞の活かし方に段階的な違いが見られたため、それも含めて歌詞の替え方を表 3 の 5 つに分けてみた。

表 3 歌詞の替え方

タイプ	段階	歌詞の替え方	曲例№	練り	即興性
a	1	原曲歌詞をそのまま用いて遊ぶ	①③	↓ 低い 高い	↑ 高い 低い
	2	一部単語を替える	②④⑤⑥⑦		
	3	一部文章を替える	⑧⑩⑪⑭⑯⑰		
	4	ほとんどの文章を替える	⑫		
b	5	全部の歌詞を替える。	⑨⑬⑮	高い	低い

歌詞を替える部分が多くなるほど、形式にきれいにはまる作品をつくるには歌詞を「練る」作業が必要になる。歌詞を「練る」とは、テーマに沿って、リズムや韻律に合うように、言葉を選び工夫してはめ込み繋いでいくことであり、音より単語、単語より文章になるほど語彙力や表現力が求められる。そのため、小学生がつくる遊び替え歌はほとんどが一部単語の交換に留まり、それも場当たりのつくられるために意味の上では支離滅裂になることが多いが、そこが楽しさでもあると言える。Ⅲ章 2 節 2 項の「インターネットから」3) にあったような表現

技法などの高度なテクニックは、大人ならではの技である。

その一方、「練る」ためには時間を要し、事前に歌詞をつくっておくことになる。「遊び」のための替え歌には、その場その場の興味や空気に反応できる即興性が必要である。小学生の遊び替え歌が原曲歌詞をほとんど替えずに用いるのは、即興的な遊びだからである。

そう考えると、歌詞を「練る」必要性は作詞の難易度とも関連する。例えば表現替え歌を見ると、「一部単語を替える」が「好きなもの」④⑤⑥⑦、「一部文章を替える」が「願望」⑧と「想像」⑩⑪、「ほとんどの文章を替える」が「お話」⑫、「全部の歌詞を替える」が「願望」⑨となっている。「好きなもの」はその場その時のイメージを当てはめ、「願望」⑧は短冊に書かれた願い事をそのまま読んだりしているが、「想像」はイメージを膨らませまとめているし「お話」にはストーリーの整合性も必要である。この表では⑬⑭は「一部文章を替える」となっているが、みんなで思い出を出し合っまとめるタイプの「カスタマイズ」はさらに練る必要があるだろう。結果として、場で楽しめる自由度が高いのは a タイプ、想像を膨らませるなら b タイプが適しているとも言えるだろう。

3 点目は、原曲のイメージである。記憶替え歌の場合、歌う人に馴染みがあって歌詞を乗せやすければ、原曲はなんでもよいことになる。実際《アルプス一万尺》で中国王朝を覚える、などいくつかある暗記系の替え歌の歌詞と原曲に直接の関連性は感じられない。表 2 でも「記憶」⑮の名前替え歌の《チューリップ》は、子どもの人数次第で代わりに《ぞうさん》や《ミッキーマウスマーチ》も使えたと書かれている。

一方で、「生活習慣」⑬の《あめふりくまのこ》と⑭の《あわてんぼうのサンタクロース》は原曲のイメージが替え歌にも活かされている例である。《あめふりくまのこ》の雨のイメージと手洗いのイメージが重なり、《あわてんぼうのサンタクロース》の「いそいで」いる素早いイメージが片付けを「手早く」行うイメージと重なる。それだけではなく、《あめふりくまのこ》のほんわかとした優しいイメージに乗って丁寧に手を洗う、《あわてんぼうのサンタクロース》の「リンリンリン」や「チャッチャッチャッ」「楽しく」「ゆかいな」というイメージに乗って片付けを楽しく行う、といったことも原曲が活かしている点であろう。

このような原曲のイメージは、歌詞と音楽に歌が愛され歌われてきた年月も加わり育まれてきた世界観である。こどもの歌を原曲とする替え歌をつくることで、そのような歌のイメージを再認識し、イメージを活かすことで歌の魅力を再発見できるとも考えられる。

以上をまとめると次のようになる。こどもの歌には替え歌の 4 種類の作例が見られ、さまざまな替え歌創作の可能性はある。歌詞の替え方は、大きくは一部を替える a タイプと全部を替える b タイプに分かれるが、a タイプはさらに音、単語、文章の一部、大部分に分けられる。a タイプから b タイプに向けて言葉を練る度合いが増し、即興性が減る傾向がある。遊びには a タイプ、想像を膨らませるには b タイプが適する。原曲のイメージも替え歌に活かされている。

次に、これらの点と III 章 2 節 3 項の替え歌のつくり方のまとめを合わせ、保育者養成にも生

かすことをふまえた替え歌のつくり方について考えてみる。

2. 替え歌のつくり方例から

替え歌のつくり方で重要となるのは、原曲選びと歌詞のどの部分をどう替えるかである。

1) みんなの知っている原曲を用いる。

Ⅱ章 1 節の「表現としての替え歌づくりの 5 つの重点」の 3)にあるように、「原曲にはシンプルな構造の短い曲で、参加者全員が馴染んでいる曲を用いる」ことを前提としたうえで、4 種の創作目的のどれにするか（何のためにつくる替え歌か）、歌詞の替え方 **ab** タイプ（「どの部分を」替えるのか）、歌のイメージも合わせて考えて選曲する。

2) 原曲を何度も歌って、楽しみながら体で覚える。

覚えるまで歌う。こどもの歌であれば短いものが多いので覚えること自体は難しくないが、楽しんで歌いこむことがコツであると思われる。

3) テーマを決める。

「どう替えるか」の内容部分である。自分の好きなテーマを選ぶのか、与えられたテーマの中で好きな言葉や内容を探すのか、いずれも自分の好きなことから出発すると自己表現としての創作活動につながると考えられる。

4) 原曲のリズムや音数に合わせて歌詞を考える。

「どう替えるか」の技術的部分である。2)と合わせて、原曲の形式を知り、歌詞のどの部分を替えるのか、音数やリズムと合わせて、選んだ言葉をどうはめ込むかを工夫する。Ⅲ章 2 節 1 項の《森のくまさん》展開例での図 2「作詞用プリント例」のような資料があると、形式がわかりやすく、作詞作業がしやすいであろう。

5) 原曲の歌詞を上手に流用する。

原曲あつての替え歌である。替えない部分の歌詞が生み出すリズム、替える部分とのギャップ、**b** タイプで歌詞全部を替える場合も原曲のイメージは生きていること、なども含めて原曲を上手に生かすとよい。

以上が保育者養成にも生かすことをふまえた替え歌のつくり方である。つくり方以外にも次のような工夫が考えられる。例えば、替え歌創作を行う前に遊び替え歌で遊んだり子どものころに歌った替え歌を教え合ったりすると、替え歌の楽しさを思い出すことにつながる。同じ替え歌でも伝承により違いが生まれるものであり、わらべうたのように生きて変化していく替え歌の生命力にも気づくことができる。また、歌詞の替え方を参考に替える部分の少ないものからスタートすると、子どもと一緒に替え歌づくりを楽しむことができるであろう。カスタマイズ替え歌や表現替え歌のお話ものには、グループで話し合いながら取り組むのもよいであろう。

次に、表現替え歌のつくり方を三例、簡単に提案する。

(3) 《どんぐりころころ》の替え歌創作例

これもⅢ章 1 節(2)-2 の 4)お話替え歌⑩《どんぐりころころ》で紹介したが、この歌にはこの歌の替え歌で綴られた絵本が 2 冊ある。そのうち『どんぐりころころそのあとは...』を用いて替え歌創作を行う。

- 1) ペープサートなどで楽しみながら《どんぐりころころ》の 1, 2 番を何度か歌って覚える。
- 2) どんぐりはこのあとどうなったのか、続きを考えてみる。
- 3) 絵本の読み聞かせをする。
- 4) 絵本をみながら文を皆で歌ってみる。
- 5) 話を 2 番の終わりに戻し、「どんぐりの冒険」というテーマでお話の続きとなる替え歌をつくる。絵本では 3 番～7 番までの創作であるが、長さは自由とする。
- 6) 出だしは「どんぐりころころ」とする。
- 7) 自分の替え歌を自分で歌って発表する。
- 8) よくできた作品を皆で歌ってみる。
- 9) グループで替え歌をつくり、絵も描いて絵本にしてもよい。毎週の授業で 1 番ずつ歌（お話）が増えていくように、リレー形式でつくってもよい。

V. おわりに

1. まとめ

本研究の目的は、保育者養成における音楽表現としての替え歌づくりの方法を探ることである。Ⅲ章のこどもの歌による替え歌作例および替え歌のつくり方例に関する調査結果と、Ⅳ章の考察から次のことがわかった。

まず、替え歌が遊びの歌であるという認識から記録に残りにくいことを考慮に入れ、インターネット上に見られる作例も積極的に集めた中から、18 曲 17 例のこどもの歌を原曲とする替え歌を選出し分析したところ、次のような結果が得られた。

こどもの歌を原曲とする替え歌には替え歌の 4 つの創作目的すべてに関して作例が見られ、このことから、替え歌創作には保育者養成における音楽表現も含め、遊び以外にもさまざまな可能性があると言える。替え歌創作において歌詞の替え方は、大きくは一部を替える a タイプと全部を替える b タイプに分かれるが、a タイプはさらに「音」「単語」「文章の一部」「文章の大部分」を替える 4 段階に分けられた。a タイプから b タイプに向けて言葉を「練る」度合いが増し、即興性が減る傾向があるため、遊びには a タイプ、想像を膨らませるには b タイプが適している。原曲のイメージも替え歌に活かされている。

次に、小学校での替え歌創作とインターネット上に見られる一般的な替え歌創作の方法を参考に、保育者養成にも生かすことをふまえた替え歌のつくり方について考察したところ、次の

方法を導き出した。

- 1) 原曲にはシンプルな構造の短い曲で、参加者全員が馴染んでいる曲を用いる。こどもの歌はこの条件によく合うので、さらに創作目的、歌詞の替え方 ab タイプ、歌のイメージも合わせて考えて選曲する。
 - 2) 原曲を何度も歌って、楽しみながら体で覚える。
 - 3) テーマを決める。自分の好きなことから出発すると自己表現としての創作活動につながりやすい。
 - 4) 原曲の形式を知り、リズムや音数に合わせて歌詞を考える。
 - 5) 原曲の音楽、歌詞、イメージを上手に生かす。
- 最後に、表現のための替え歌づくりを 3 例提案した。

2. 今後に向けて

ここまで替え歌づくりについて述べてきたが、本来著作者に無断で歌詞を替えることは著作権侵害とみなされるため、替え歌づくりでは注意しなければならない。一つは教育上の必然性をもって、必要な部分のみを授業で使用するようにする。また、著作権保護期間がすでに切れている作品を原曲に選ぶのも安全と言える。前掲の《こいのぼり》と《どんぐりころころ》は著作権フリーの曲である。著作権保護期間に関しては調べればわかるが、替え歌にかかわる著作権がいくつかあることや、歌の場合作詞者と作曲者の著作権が別であることから、保護期間中の曲を原曲とする場合は事前に調べておく必要がある。

著作権に気を付けるとともに、倫理観をもって替え歌を扱うよう注意を払わなければならない。遊び替え歌には倫理観、道徳観に欠ける歌詞が頻繁に出てくる。授業の場でも、子どもと楽しむためにも、不適切な言葉や内容には注意が必要である。

それらに留意したうえで、それでも替え歌には自己表現の手段としての可能性がある。Ⅲ章 1 節 3 項の 2) 願望替え歌で⑨《うみ》を取り上げた際、精神科医である牧野が日本古来の音楽療法のモデルの一つとして「つくり歌」(＝替え歌)を重視していることに触れたが、つくり歌が自分の想いを声に出して歌うことで一種の満足感を得られる行為なのであれば、願望替え歌を声に出して歌うことは with コロナの時代に辛さを和らげる役割を果たすかもしれない。

今後は「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における 5 領域の中の「表現」と替え歌づくりの関連や、替え歌づくりが保育者の専門性の形成において持つ意義についての考察を深め、替え歌創作のさらなる可能性について実践をとおして探っていきたい。

<注>

- ¹ 本稿における「こどもの歌」は、唱歌、童謡、子どものために作曲された歌、保育現場で歌われている歌を指す。メロディが決まっていることが原曲の条件なので、伝統的なわらべうたは含まない。
- ² twitte.com, #ひな祭り替え歌,
<https://twitter.com/hashtag/%E3%81%B2%E3%81%AA%E7%A5%AD%E3%82%8A%E6%9B%BF%E3%81%88%E6%AD%8C> , 2020/11/15
- ³ 中澤星児, ロケットニュース 24, <https://rocketnews24.com/2020/10/11/1418593/> , 2020/11/15
- ⁴ 中田ひろこ, note, <https://note.com/nakatahiroko/n/nadc39be47e03> , 2020/11/15
- ⁵ 京都市児童館学童連盟, 京都市の児童館,
<http://www.kyo-yancha.ne.jp/umedu/otayori/outidegidoukan.html> , 2020/11/15
- ⁶ 楽天ブログ, 徒然庵, <https://plaza.rakuten.co.jp/turedurean/diary/200709200000/>, 2020/11/15
- ⁷ 南横須賀幼稚園, MINAMI YOKOSUKA KINDERGARTEN,
<https://minamiyokosuka.ed.jp/teacher/2019/10/28004/>, 2020/11/15
- ⁸ 涼, ダーさんの手遊び大百科, <http://daahsun.backdrop.jp/001/autumn/post-193.html>, 2020/11/15
- ⁹ ひまわり, ひまわり日本のうた,
<https://douyou-shouka.himawari-song.com/ookinakurino-kinoshitade/>, 2020/11/15
- ¹⁰ マリヤ保育園, マリヤ保育園～今日の保育室～, <http://blogs.makusta.com/ainosono/>,
2020/11/15
- ¹¹ GMO ペパボ株式会社, minne, <https://minne.com/items/14855769>, 2020/11/15
- ¹² 川満慶, 川満慶ギター音楽教室,
<https://blog.goo.ne.jp/kklucky/e/2e8a95a8721a85e273e2c9db426f6e2a>, 2020/11/15
- ¹³ 社会福祉法人緑峯会, 愛の郷だより, <https://ryokuhokai.com/pdf/201908.pdf>, 2020/11/15
- ¹⁴ 源河雅代, 表現する意欲と豊かな感性を育てる援助のあり方 ～歌からイメージを膨らませて遊ぶ活動を通して～, <https://www.fureai-cloud.jp/okisiken/attach/get2/430/0>, 2020/11/15
- ¹⁵ スマイル☆キッズ, スマイル☆キッズ, <http://www.smile-kids-hoikuen.jp/school/entry-66.html>,
2020/11/15
- ¹⁶ 稲敷市立古渡小学校, 稲敷市立古渡小学校の日記ページ,
<http://www.inashiki.ed.jp/hp/futto-ps/blognplus/index.php?e=924>, 2020/11/15
- ¹⁷ 保育士さんの応援歌, <http://hoikuassist.web.fc2.com/urawaza/kaeuta2.html>, 2020/11/15
- ¹⁸ 福島市立東湯野小学校, 東湯野小学校日誌,
https://fukushima.fcs.ed.jp/blogs/blog_entries/view/1187/6a101e654d47dfb335a2e7b73c3daf60?frame_id=1091 ,
2020/11/15
- ¹⁹ ぼっくる先生, 保育の知恵袋, <https://poccle.com/2017/12/28/omoidenoalbum/>, 2020/11/15
- ²⁰ 広島市立戸坂城山小学校, 学校の様子,
<http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0907&date=20150331> , 2020/11/15
- ²¹ いそからす, ECTOR'S ROOM, <http://isokarasu.blog108.fc2.com/blog-entry-490.html>, 2020/11/15
- ²² NHK, 世界を応援しよう!, <https://sports.nhk.or.jp/dream/cheer/>, 2020/01/30

<引用文献>

- 1) 有馬 徹: 替歌研究, KTC 中央出版, 2000.
- 2) 石井聖岳: とらのこさんきょうだい かえうたかえうたこいのぼり, 講談社, 2010.
- 3) 大田美郁: 保育者養成における「表現のための」替え歌づくりの教育的可能性, 小田原短期大学研究紀要, 第 51 号, pp.193-204, 2021.
- 4) 岡恵子: 替え歌遊び (授業に使える言葉遊びシリーズ), 明治図書出版, 1990.

- 5) 風間純子：「替え歌」創作の教育効果に関する一考察：「こどもと音楽Ⅱ<さまざまな“うた”>」における授業実践をもとに―，至学館大学教育紀要，18号，pp.36-75，2015.
- 6) 小泉文夫編：わらべうたの研究，稲葉印刷所，1969.
- 7) 志村まゆみ：どんぐりころころそのあとは…，新日本出版社，2019.
- 8) スギヤマカナヨ：どんぐりころころ おやまへかえるだいさくせん，赤ちゃんとママ社，2014.
- 9) 能村昭子：介護予防+認知症予防プログラム 歌あそび・歌体操 12ヵ月80種，あおぞら音楽社，2014.
- 10) 牧野英一郎：日本人のための音楽療法，幻冬舎メディアコンサルティング，2019.
- 11) Wikipedia 日本語版，替え歌，<https://ja.wikipedia.org/wiki/替え歌>，2020/11/15